

当別文芸の会だよりNO.98

H30・12/13 (連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

「公開・文芸セミナー」開催される

先の見通せない一年でしたが、いよいよ師走となった12月1日、白樺コミセンを会場にして、当別文芸の会活動9周年を数える「公開・文芸セミナー」が開催されました。当日は、午前中雪模様でしたが午後には晴れ間も見え、会員12名、町民7名の計19名のみなさんが参加されました。

第1部では、当会副代表の大澤勉さんが、「わたしのエンジョイ人生」ーくらし・音楽・絵画などーと題して、話題提供をしていただきました。

大澤さんは当別町中央(現在の六軒町)生まれで、この地で農業を営んでおり、現在は花卉栽培を中心に農業経営を行っています。

大澤さんは昭和12年(1937)生まれですが、当時は、長男であれば当然、家業を継ぐという時代で、農業の傍ら、地域の活動にも積極的に関わり、地元の高校(当時は道立札幌西高定時制)の夜学に通いなが、音楽や美術、文学などにも関心を持ち、現在まで、様々な活動を続けてこられました。

なかでも、美術は青年時代に「武蔵野美術学校」(通信制)を受講し、「札幌青年美術協会」にも所属し、デッサンを中心に絵画の基礎を学んだようです。

現在は、全国公募の「日美絵画展」(東京)に毎年出品し、数多くの受賞歴もあり、札幌、当別でも個展を開催し、絵画を生涯の友としています。

日々のくらしの中で、文学(読書)、音楽(クラシック音楽)、絵画に親しんできたことが、心の大きな支えになったと語ってくれたのが印象的でした。

第2部では、東前寛治さん(当会幹事)の司会進行で、大澤さんの持参された2枚の水彩画(25号)を前にして、参加者からも時間が足りないくらい、活発な意見が出されました。

大澤さんのたゆまぬ努力、人生を発酵させながら生きてこられた半生に、みなさん、感銘と多くの示唆をいただいようです。大澤さん、ありがとうございます。

次回・読書会のご案内

次回は年が明けた2月23日(土)13:30~15:30、白樺コミセンです。

指定の文庫本「巖窟」(くまあらし)吉村昭著(新潮文庫)は、このたよりと一緒にお届けします。 新しい年の幕開け。みなさん、良いお年を。

現在、かみさんは、週2回の訪問リハビリを受けながら、外出は歩行器で。

○5月 松浦武四郎ゆかり（三重県）の旅

「ほっかいどう学を学ぶ会」の10周年記念事業の一つとして、顧問の合田一道先生ほか会員18名で、2泊3日のツアーを実施。

三重県松阪市の「松浦武四郎記念館」、県内の「本居宣長記念館」「伊勢神宮＝内宮・外宮」「大黒屋光太夫記念館」、名古屋市の「徳川美術館」などを廻る。

まさに、「温故知新」（古きを尋ねて、新しきを知る）の旅。

○7月 「当別文芸」（第8号）の発刊

「当別文芸の会」も発足して9年目。現在、会員は17名。今年度は年間7回の例会・読書会・公開文芸セミナーなどを実施。文芸誌「当別文芸」（第8号）も、みなさんのおかげで、発刊することが出来た。

○9、10月 「北海道・海辺のまち歴史紀行」10年かかって走破

平成21年（2009）から、日本海沿岸を南下し、太平洋沿岸、オホーツク海沿岸を廻り、それぞれのまちの史跡や歴史遺産などを見てきたが、気がついたら10年目。今回は、残りの宗谷（猿払から）、留萌、石狩の12市町村を3泊4日、日帰り3日間の、計7日間で廻る（車の走行距離・計1,216km）。

道内の海辺のまちは、島の利尻、東利尻、礼文、奥尻の4町を除き、海岸線を一巡して79市町村あるが、一人旅を楽しみながら、雄大な北の大地を走破することが出来た。蝦夷（えぞ）地の歴史は、太古から続いているのを実感。

新しい年は、下北・津軽半島の一人旅を計画中（車で）。津軽の歴史、風土、なかでも「じょっぱり」の精神はどこから来ているのか。とても楽しみ。

○4月～11月 今年も健康ゴルフに精を出す

いつも、練習なしで、素振り3回でスタート台。シニアティ、立ち乗りカートで、上がってなんぼのゴルフ。何年やっても上達は難しい。

それでも、初雪が遅かったので、11月15日までプレイができた（今年は30回）。最終日の収穫は8mのロングパットが決まり、来年につながるか。

新しい年に夢を重ね、みなさんにとっても、ご多幸の年でありますよう
ご祈念申し上げます。よいお年をお迎えください、

〒061-0227 北海道石狩郡当別町園生 55-27 パークレジデンス3F

河地 良一&紀美子

TEL0133-23-2103（良一・090-5076-2550）